

各 位

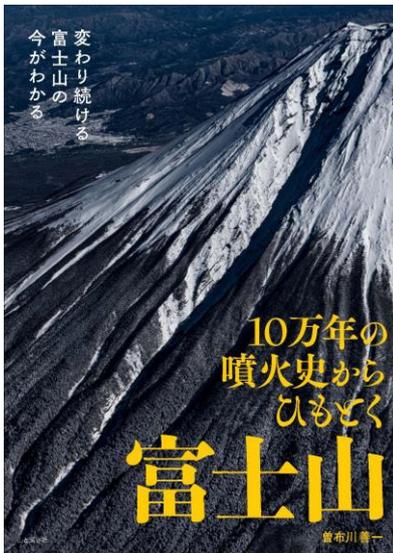
2024年6月17日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

火山としての富士山をとらえ直した一冊。
『10万年の噴火史からひもとく富士山』刊行

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『10万年の噴火史からひもとく富士山』（曾布川善一：著）を2024年6月17日に刊行いたしました。



約10万年前に現在の原形ができた富士山は、噴火と崩壊を繰り返し、樹海や湖、湿原、滝、溶岩洞穴などさまざまな景観を生み出しました。二十余年にわたり富士山に通う写真家が写し取った富士山の知られざる顔。美しい写真と解説で、火山としての富士山をとらえ直します。

序章「富士山 火山の成り立ち」では、富士山がなぜ、あの場所で今の形になったのかを、主に火山学の見地から解説。

本章「噴火がつくった富士山の世界」では、山頂火口、樹海、湖、湿原、滝、溶岩洞穴、氷筈などについて、どのようにしてその地形ができたのか、実際にその場を訪れた写真家による美しい写真とともに解き明かします。また、富士山そのものをご神体とする修験の姿なども紹介しています。

富士山が「そこ」にある理由

日本列島でほかには類例のない特徴をもつ火山、富士山。富士山が誕生した場所は、その理由がある。

特異な性質をもつ火山、富士山

日本のほぼ中央に、大きく範囲を広げた美しい形で雄偉する富士山。日本には400を超える火山があり、富士山は、陸上火山の中で突出して巨大な山体と高さをもつ。火山の一生は、数十万〜100万年とされているなかで、富士山が噴出したのは約1万年。比較的若い火山です。富士山はその先いさぎの間に、巨大な量のマグマを噴出し急遽に成長した結果、伊豆・小笠原火山弧の噴火火山をのぞく日本列島において最大の陸上火山となりました。

▲富士山噴火履歴(2012年現在)に由来する日本海溝沿いの活火山(2012年現在)より、約400以上の噴火履歴をもつ富士山は、日本列島の火山活動の中心地として、約1万年にわたって噴火を繰り返している。



▲富士山噴火履歴(2012年現在)に由来する日本海溝沿いの活火山(2012年現在)より、約400以上の噴火履歴をもつ富士山は、日本列島の火山活動の中心地として、約1万年にわたって噴火を繰り返している。

富士山は、その大きな山脈を形づけているマグマの性質にも特徴があります。日本列島の陸上火山の多くは主として酸性岩マグマを噴出していますが、一方富士山は、隕石から10万年の古いウツチを通じてごく一部の噴火(宝永噴火等)を除き、玄武岩マグマのみを噴出し続けてきました。玄武岩マグマを主とする火山は、伊豆・小笠原火山弧の火山群に限られ、陸上火山では富士山以外にありません。

では、なぜ富士山は、日本列島でここにしかない特徴をもつ火山として、現在のような姿となったのでしょうか。それは、富士山の誕生した場所が大きく関わっています。

地球内部の動きで生まれるマグマ

地球の表面は、厚さ数十〜100kmほどのプレートに覆われています。プレートは、地球の表面を構成する薄く脆い地殻とその下にあるマントルと呼ばれる分厚い岩石層の一部(もしくは最上層)でできており、物の中にある山脈(海嶺)で誕生します。プレートは、地球内部の対流によって常に動く。



噴火がつくった富士山の世界

幾度も噴火によって生み出された、富士山を取り巻く大地の造形と折々の形を写し撮る

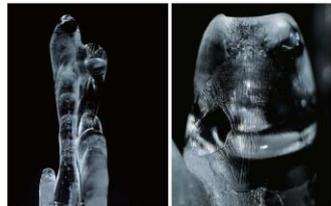


▲この噴火の痕跡が写し出されて、今も残る噴火の痕跡。噴火のたびに、この洞窟は噴火の痕跡を刻みつけていく。

氷巻の個性

氷巻は毎年生れ変わりますが、同じ氷巻は二度と見えてはくれません。個性豊かな氷巻は、融けて何日も経たぬうちに、氷のほうから声をかけてくれるようになります。「氷を撮ってこれ」(おはこ)と、声がかかる方向にのつるつるの雪の上を歩きます。氷の頂上から出るときは、1000m以上の高差から氷塊と雪を降り送ります。この異世界をつくった富士山の個性を伝えていきます。

▼同じ氷巻に毎年行く。同じ氷巻に毎年行く。個性豊かな氷巻は、融けて何日も経たぬうちに、氷のほうから声をかけてくれるようになります。「氷を撮ってこれ」(おはこ)と、声がかかる方向にのつるつるの雪の上を歩きます。氷の頂上から出るときは、1000m以上の高差から氷塊と雪を降り送ります。この異世界をつくった富士山の個性を伝えていきます。



▲氷の塊が積る様子も写し出された。

▲「おはこ」氷巻は氷塊が落ちて降り積る。

▲氷の塊が積る様子も写し出された。この氷の塊が落ちて降り積る。おはこ氷巻は氷塊が落ちて降り積る。

【目次】

はじめに

富士山周辺図

序章 火山 富士山の成り立ち

序章 01 富士山が「そこ」にある理由

序章 02 美しい円錐形の姿はこうしてつくられた

噴火がつくった富士山の世界

01 山頂火口

02 樹海を生んだ大噴火

03 貞観噴火が生んだ湖

04 岩屑なだれがつくった湿原地帯

05 白糸の滝

06 崩壊谷と大滝

07 市兵衛沢

08 溶岩洞穴

09 樹海の氷

富士山に現われる雲

10 火山が生んだ富士修験

11 溶岩樹型

12 霊場となった溶岩洞穴

13 宝永噴火

おわりに

富士山略年表と本書関連記事

主な参考文献

◆著者紹介

曾布川善一(そぶかわ・よしかず)

1958年生まれ。神奈川県横浜市在住。2002年に独立。独学で写真を始める。富士山をテーマとし、富士山麓から山岳、富士山中をフィールドに撮影活動を行なう。2020年、2022年、2024年に個展を開催。公益社団法人日本写真家協会会員。

<https://www.mfujisobu.com/>

◆書誌情報

書名:10万年の噴火史からひもとく富士山

著者:曾布川善一

発売日:2024年6月17日

定価:2,530円(本体2,300円+税10%)

判型:B5判並製

ページ数:オールカラー128ページ

ISBN:978-4-635-53075-0

<https://www.yamakei.co.jp/products/2824530750.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：神谷浩之

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>